

- 1 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？
 ① 武家諸法度 ② 建武式目 ③ 公事方御定書 ④ 貞永式目
- 2 鎌倉文化に見られる、武士の気風を反映した特徴を表現する言葉として「何々さ」とよく言われるものは？
 ① 写実性 ② 力強さ ③ 優雅さ ④ 躍動感
- 3 鎌倉時代に広まった仏教の新しい宗派の一つで、ひたすら座る修行を行うことを重視した宗派を何という？
 ① 真言宗 ② 浄土宗 ③ 曹洞宗 ④ 天台宗
- 4 源頼朝が全国に配置した、軍事・警察権を持つ役職である「守護」と、荘園や公領の管理・年貢徴収を担う役職をまとめて何という？
 ① 守護・地頭 ② 院庁・検非違使 ③ 摂政・関白 ④ 国司・郡司
- 5 鎌倉幕府が成立当初、支配の中心としていた地域を何という？
 ① 南日本 ② 北日本 ③ 西日本 ④ 東日本
- 6 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
 ① 奈良時代 ② 鎌倉時代 ③ 平安時代 ④ 室町時代
- 7 鎌倉時代、幕府の打倒をめざして挙兵し、敗れて隠岐に流された人物は誰？
 ① 後白河上皇 ② 崇徳上皇 ③ 後鳥羽上皇 ④ 後醍醐天皇
- 8 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
 ① 元軍 ② 朝廷軍 ③ 平氏軍 ④ 鎌倉軍
- 9 鎌倉幕府において、将軍が御家人に本領を安堵したり新恩を給与したりすることと、御家人が軍役などを果たすことの結びつきを何という？
 ① 年貢徴収 ② 本領安堵 ③ 新恩給与 ④ 御恩と奉公
- 10 マルコ・ポーロが記した『東方見聞録』の別名を何という？
 ① 大唐西域記 ② 世界の記述 ③ 三国遺事 ④ 元史
- 11 『東方見聞録』を記した、モンゴル帝国のフビライ＝ハンのもとを訪れたイタリアの旅行家は誰？
 ① フビライ・ハン ② イブン・バットゥータ ③ マルコ・ポーロ ④ コロンブス
- 12 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？
 ① 地頭 ② 評定衆 ③ 執権 ④ 守護
- 13 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？
 ① 執権 ② 地頭 ③ 問注所 ④ 評定衆
- 14 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？
 ① 浄土信仰 ② 末法思想 ③ 無常観 ④ 現世利益
- 15 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
 ① 物語 ② 日記 ③ 日記文学 ④ 随筆



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「 貞永式目 」とも呼ばれます。		4 貞永式目	☐
2	「 力強さ 」とは、鎌倉文化を象徴するキーワードです。		2 力強さ	☐
3	曹洞宗 は、宋から帰国した道元が日本に伝えた宗派です。		3 曹洞宗	☐
4	頼朝は、朝廷の許可を得て、各国に「守護」を、荘園や公領ごとに「地頭」を置きました。		1 守護・地頭	☐
5	鎌倉幕府の当初の支配圏は、主に「 東日本 」に限られていました。		4 東日本	☐
6	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を湛えた文学が発展しました。		2 鎌倉時代	☐
7	しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である 後鳥羽上皇 は隠岐へ流されることとなりました。		3 後鳥羽上皇	☐
8	元軍 は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。		1 元軍	☐
9	将軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。		4 御恩と奉公	☐
10	『 世界の記述 』（あるいは『驚異の書』とも呼ばれる）は、モンゴル帝国（元）のフビライ=ハンのもとでの体験、中国の高度な文明、さらには日本などの周辺国の様子が描かれています。		2 世界の記述	☐
11	マルコ・ポーロ はヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを通って元の都（大都）へ渡り、フビライ=ハンに仕えました。		3 マルコ・ポーロ	☐
12	地頭 は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。		1 地頭	☐
13	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、 地頭 は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。		2 地頭	☐
14	無常観 とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。		3 無常観	☐
15	随筆 は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。		4 随筆	☐

言えなかった用語ノート